

## 02 国文学専攻

## Japanese Literature

### (1) 修士課程

#### ● 目的

国文学専攻は、国語学・国文学・漢文学に関する分野における研究能力、または国語学・国文学・漢文学に関する高度の専門性を要する職業等に必要な能力を有する人材の養成を目的とする。

#### ● 学位授与の方針

修士課程においては、大学院学則に定める年限以上を在籍し、国文学専攻に開設された授業科目より所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けたうえで修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格することが必要である。そのうえで、国語学・国文学・漢文学に関する研究能力または国語学・国文学・漢文学に関する高度の専門性を有する職業等に必要な能力の獲得という、国文学専攻の定める目的に到達し、それを修得したことが認められる、豊かな読解力、分析力、表現力を新たに身につけた者に対して、修士（国文学）の学位を授与する。

#### ● 教育課程の編成・実施方針

修士課程においては、国語学・国文学・漢文学に関する高度な研究能力を有する人材を養成するための総合的、体系的な教育課程を編成している。古代から近現代までの時代、分野における専門的な講義、演習科目を配置し、学習者がそれらの関連分野を組織的に履修することによって、自己の専門領域に留まることのない、幅広い知見と研究方法を修得できるよう配慮している。また単位互換協定を結んだ他大学の講義を受講することも可能である。修士論文の作成においては、専門分野の教員による、計画的、生産的な個別指導を行っている。

#### ● 修了の要件

1. 修士課程に2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 各年次の履修単位数は、原則として1年次は指導教員の演習4単位を含む20単位以上30単位未満とし、2年次は指導教員の演習を含む4単位以上とする。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の演習4単位	22単位以上	30単位以上
2年次	指導教員の演習4単位		

#### ● 学位論文の審査基準

1. 明確な問題意識があり、研究対象が明示されていること。
2. 研究課題解決のための、明晰な方法論を備えていること。
3. 研究史を精査したうえで、自己の研究の位置づけが明確に為されていること。
4. 研究における論理性と実証性がともに満たされていること。
5. 表記、表現及び論述が適切であり、明晰な構成のもとに成立していること。
6. 研究における学術上の成果と意義が認められること。

#### ● 履修上の注意

1. 履修科目の選択にあたっては、指導教員の指導を受け、研究テーマに関連の深い全科目にわたって履修すること。
2. 指導教員が必要と認めた場合には、指導教員以外の演習科目の中から10単位、他専攻の講義科目の中から4単位に限り履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。
3. 指導教員が必要と認めた場合は、交流協定校「学生交流協定（他大学大学院および大学共同利用機関履修）〈P.12〉」の授業科目を履修することができる。
4. 他専攻修得単位・他大学大学院修得単位・協定（認定）校留学により修得した単位は合計10単位を上限として、修了に必要な単位として認定することができる。
5. 他系統学部出身者には、当該専攻に関わる学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため、大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合、学部で開講している関連基礎科目（指導教員の指定する科目）の特別履修を課すことがある。ただし、関連基礎科目の単位は認定しない。

● 開講科目

授業科目	学習方法	単位数	担当者		備考
国語学特講Ⅰ	講義	4	専任・博(文)	土井光祐	
国語学研究Ⅰ	講義	4	専任・博(文)	土井光祐	(隔年開講のため本年度休講)
国語学演習Ⅰ	演習	4	専任・博(文)	土井光祐	
古代前期文学特講	講義	4	専任・博(文)	中嶋真也	
古代前期文学研究	講義	4	専任・博(文)	中嶋真也	(隔年開講のため本年度休講)
古代前期文学演習	演習	4	専任・博(文)	中嶋真也	
古代後期文学特講Ⅰ	講義	4	専任・博(文)	松井健児	
古代後期文学研究Ⅰ	講義	4	専任・博(文)	松井健児	(隔年開講のため本年度休講)
古代後期文学演習Ⅰ	演習	4	専任・博(文)	松井健児	
中世文学特講Ⅰ	講義	4	専任・博(国文)	田中徳定	
中世文学研究Ⅰ	講義	4	専任・博(国文)	田中徳定	(隔年開講のため本年度休講)
中世文学演習Ⅰ	演習	4	専任・博(国文)	田中徳定	
中世文学特講Ⅱ	講義	4	専任・博(人文)	櫻井陽子	
中世文学研究Ⅱ	講義	4	専任・博(人文)	櫻井陽子	(隔年開講のため本年度休講)
中世文学演習Ⅱ	演習	4	専任・博(人文)	櫻井陽子	
近世文学特講Ⅰ	講義	4	専任・博(人文)	近衛典子	
近世文学研究Ⅰ	講義	4	専任・博(人文)	近衛典子	(隔年開講のため本年度休講)
近世文学演習Ⅰ	演習	4	専任・博(人文)	近衛典子	
近代文学特講Ⅰ	講義	4	専任	勝原晴希	
近代文学研究Ⅰ	講義	4	専任	勝原晴希	(隔年開講のため本年度休講)
近代文学演習Ⅰ	演習	4	専任	勝原晴希	
近代文学特講Ⅱ	講義	4	専任	岡田豊	
近代文学研究Ⅱ	講義	4	専任	岡田豊	(隔年開講のため本年度休講)
近代文学演習Ⅱ	演習	4	専任	岡田豊	
近代文学特講Ⅲ	講義	4	専任・博(人文)	倉田容子	
近代文学研究Ⅲ	講義	4	専任・博(人文)	倉田容子	(隔年開講のため本年度休講)
近代文学演習Ⅲ	演習	4	専任・博(人文)	倉田容子	

● 授業科目の概要

■ 国語学特講Ⅰ【講義】

土井 光祐

歴史的変異と地域的変異との二つの視点を基軸として、日本語の構造と変遷とを実証的に分析する能力を身に付ける。特に、文献資料を扱う上での基礎となる国語史の常識的な知見を身に付けて、各自の専門領域に活かし得る能力を養う。受講者の専門性に配慮しつつ、国語史の解明に有用な文献を選定して精読すると共に、これまでの国語史研究において、方法上の新機軸を提示したものとされる代表的な先行研究を取り上げて、言語資料及び用例の捉え方、論証の過程を検証していく。

■ 国語学演習Ⅰ【演習】

土井 光祐

特定の言語資料を選定して、音韻史、文字表記史、文法史、語彙史、文体史等の諸点から言語徴証の分析と定位とを繰り返して、国語史としての一般化を目指していく。一方、言語的特徴と資料的性格との関係を非常に重視するため、各文献の本来的目的、言語環境の歴史的・文化的背景、書誌的評価、諸本関係、位相等にも詳細に検討を加える。担当箇所、テーマを割り当てて、調査報告をレジュメまたはスライドに整理し、口頭で発表する形式をとる。以上の過程で、各自の専門性に応じた任意の文献資料に応用し得る国語史の研究方法の基本を身に付ける。

## ■ 古代前期文学特講【講義】

中嶋 真也

7～8世紀を中心とする上代文学を扱う。受講生の研究テーマを考慮しつつ、個別の作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には作品の読解を深めることを目的とするが、個別作品を対象とするに留まらず、作品の背景にある諸問題、また、作品成立の背景や、作品が後世に与えた影響などにも触れる。研究上必要な研究史を辿り、問題点を指摘し、研究の新たな視角を得られるよう、講義を行う。

## ■ 古代前期文学演習【演習】

中嶋 真也

古代文学の中で、7～8世紀を中心とするいわゆる上代文学を扱う。受講生の研究テーマを考慮し、修士論文作成に益するような作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には受講生が発表を担当し、他の受講生及び教員を交えての質疑応答・討論によって進める。発表の準備に力を入れ、資料作成、発表、質疑、発表結果のレポート提出を重ねることによって、作品理解と自らの問題意識の深化を促す。と共に、プレゼンテーション能力、論文作成技術を養う。

## ■ 古代後期文学特講 I【講義】

松井 健児

古代後期文学の中で、9～11世紀を中心とした時代の文学を扱う。古典文学作品としての評価を、表現性、発想法、記録性などの総合的な観点から探り、同時に、文体や語法、修辞といった個別的な観点からも究明する。作品における社会的、政治的、文化的な背景を、研究史をふまえつつ確認し、それらとの関わりにおいて、その作品がどのような史的展開の相において総覧されるかを探究する。受講生の研究テーマにより、作品やジャンルを限定的に扱うこともある。

## ■ 古代後期文学演習 I【演習】

松井 健児

古代後期文学の中で、9～11世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の研究テーマにより、修士論文作成のために必要な、作品、ジャンル、テーマ、作者を研究対象に取り上げる。研究課題解決のための、明確な方法論を探り、研究史を精査したうえで、個別の研究テーマの位置づけを行う。研究における、理論性と実証性を獲得するための方法や、基本的な技術の修得を試みる。口頭による報告、論述による報告をともに重視し、研究発表を積み重ねることによって、実践的な能力を涵養する。

## ■ 中世文学特講 I【講義】

田中 徳定

中世文学（12～16世紀を中心とする時代）を扱う。受講生の研究テーマを考慮しつつ、個別の作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には作品の読解を深めることを目的とするが、個別作品を対象とするに留まらず、作品の背景にある諸問題、また、作品成立の背景や、作品が後世に与えた影響などにも触れる。研究上必要な研究史を辿り、問題点を指摘し、研究の新たな視角を得られるよう、講義を行う。

## ■ 中世文学演習 I【演習】

田中 徳定

中世文学（12～16世紀を中心とする時代）を扱う。受講生の研究テーマを考慮し、修士論文作成に益するような作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には受講生が発表を担当し、他の受講生及び教員を交えての質疑応答・討論によって進める。発表の準備に力を入れ、資料作成、発表、質疑、発表結果のレポート提出を重ねることによって、作品理解と自らの問題意識の深化を促す。と共に、プレゼンテーション能力、論文作成技術を養う。

## ■ 中世文学特講Ⅱ【講義】

櫻井 陽子

中世文学（12～16世紀を中心とする時代）を扱う。受講生の研究テーマを考慮しつつ、個別の作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には作品の読解を深めることを目的とするが、個別作品を対象とするに留まらず、作品の背景にある諸問題、また、作品成立の背景や、作品が後世に与えた影響などにも触れる。研究上必要な研究史を辿り、問題点を指摘し、研究の新たな視覚を得られるよう、講義を行う。

## ■ 中世文学演習Ⅱ【演習】

櫻井 陽子

中世文学（12～16世紀を中心とする時代）を扱う。受講生の研究テーマを考慮し、修士論文作成に益するような作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には受講生が発表を担当し、他の受講生及び教員を交えての質疑応答・討論によって進める。発表の準備に力を入れ、資料作成、発表、質疑、発表結果のレポート提出を重ねることによって、作品理解と自らの問題意識の深化を促す。と共に、プレゼンテーション能力、論文作成技術を養う。

## ■ 近世文学特講Ⅰ【講義】

近衛 典子

近世文学（17～19世紀を中心とする時代）を扱う。受講生の研究テーマを考慮しつつ、個別の作品（あるいはジャンル・テーマ・作者等）を取り上げる。基本的には作品の読解を深めることを目的とするが、個別作品を対象とするに留まらず、作品の背景にある諸問題、また、作品成立の背景や、作品が後世に与えた影響などにも触れる。研究上必要な研究史を辿り、問題点を指摘し、研究の新たな視座を得られるよう、講義を行う。

## ■ 近世文学演習Ⅰ【演習】

近衛 典子

近世文学（17～19世紀を中心とする時代）を扱う。受講生の研究テーマを考慮し、修士論文作成に益するような作品（あるいはジャンル・テーマ・作者等）を取り上げる。基本的には受講生が発表を担当し、他の受講生及び教員との質疑応答・討論によって読解を深める。調査や資料作成、発表、質疑応答、発表結果のレポート提出を重ねることによって、作品理解と自らの問題意識の深化を促す。併せて、プレゼンテーション能力、論文作成技術を養う。

## ■ 近代文学特講Ⅰ【講義】

勝原 晴希

近代文学の中で、20世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の研究テーマを考慮しつつ、個別の作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には作品の読解を深めることを目的とするが、個別作品を対象とするに留まらず、作品の背景にある諸問題、また、作品成立の背景や、作品が後世に与えた影響などにも触れる。研究上必要な研究史を辿り、問題点を指摘し、研究の新たな視角を得られるよう、講義を行う。

## ■ 近代文学演習Ⅰ【演習】

勝原 晴希

近代文学の中で、20世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の研究テーマを考慮し、修士論文作成に益するような作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には受講生が発表を担当し、他の受講生及び教員を交えての質疑応答・討論によって進める。発表の準備に力を入れ、資料作成、発表、質疑、発表結果のレポート提出を重ねることによって、作品理解と自らの問題意識の深化を促す。と共に、プレゼンテーション能力、論文作成技術を養う。

## ■ 近代文学特講Ⅱ【講義】

### 岡田 豊

近代文学の中で、20世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の研究テーマを考慮しつつ、個別の作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には作品の読解を深めることを目的とするが、個別作品を対象とするに留まらず、作品の背景にある諸問題、また、作品成立の背景や、作品が後世に与えた影響などにも触れる。研究上必要な研究史を辿り、問題点を指摘し、研究の新たな視角を得られるよう、講義を行う。

## ■ 近代文学演習Ⅱ【演習】

### 岡田 豊

近代文学の中で、20世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の研究テーマを考慮し、修士論文作成に益するような作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には受講生が発表を担当し、他の受講生及び教員を交えての質疑応答・討論によって進める。発表の準備に力を入れ、資料作成、発表、質疑、発表結果のレポート提出を重ねることによって、作品理解と自らの問題意識の深化を促す。と共に、プレゼンテーション能力、論文作成技術を養う。

## ■ 近代文学特講Ⅲ【講義】

### 倉田 容子

近代文学の中で、20世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の研究テーマを考慮しつつ、個別の作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には作品の読解を深めることを目的とするが、個別作品を対象とするに留まらず、作品の背景にある諸問題、また、作品成立の背景や、作品が後世に与えた影響などにも触れる。研究上必要な研究史を辿り、問題点を指摘し、研究の新たな視角を得られるよう、講義を行う。

## ■ 近代文学演習Ⅲ【演習】

### 倉田 容子

近代文学の中で、20世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の研究テーマを考慮し、修士論文作成に益するような作品（あるいはジャンル・テーマ・作者）を取り上げる。基本的には受講生が発表を担当し、他の受講生及び教員を交えての質疑応答・討論によって進める。発表の準備に力を入れ、資料作成、発表、質疑、発表結果のレポート提出を重ねることによって、作品理解と自らの問題意識の深化を促す。と共に、プレゼンテーション能力、論文作成技術を養う。

## (2) 博士後期課程

### ● 目 的

国文学専攻は、国語学・国文学に関する分野における研究者として自立して研究活動を行い、または国語学・国文学に関する高度に専門的な業務に従事するに必要な、高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有する人材の養成を目的とする。

### ● 学位授与の方針

博士後期課程においては、大学院学則に定める年限以上を在籍し、国文学専攻に開設された授業科目より所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けたうえで博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格することが必要である。そのうえで、国語学・国文学に関する研究者として自立して研究活動を行い、または国語学・国文学に関する高度に専門的な業務に従事するに必要な、高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識の獲得という、国文学専攻の定める目的に到達し、それを修得したことが認められる、高度な読解力、分析力、表現力を新たに身に付けた者に対して、博士（国文学）の学位を授与する。

### ● 教育課程の編成・実施方針

博士後期課程においては、国語学・国文学に関する自立的で高度な研究能力を備え、豊かな学識を有する人材を養成するための、総合的、体系的な教育課程を編成している。古代から近現代までの時代、分野における専門的な講義科目を配置し、学習者が幅広い知見と研究方法を修得できるよう配慮している。博士論文の作成においては、専門分野の教員による、計画的、生産的な個別指導により、独創性と将来性を兼ね備えた成果をもたらすよう、助言および教授を行っている。

### ● 修了の要件

1. 博士後期課程に3年以上在学し、かつ、所定の科目（指導教員の講義）について12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 指導教員の講義と研究指導は、毎年履修すること。

年 次	必修科目	選択科目	合 計
1年次	指導教員の講義 4単位および研究指導	修得単位は任意	12単位以上
2年次	指導教員の講義 4単位および研究指導		
3年次	指導教員の講義 4単位および研究指導		

### ● 学位論文の提出要件

1. 博士論文テーマに関する論文が3本以上あること。
2. 上記の論文には、審査を経たものが1本以上含まれていることが望ましい。
3. 事前に指導教員と十分に相談し、論文提出についての承認を得ること。

### ● 学位論文の審査基準

「学位論文の提出要件」を満たして提出され、受理された論文について、学位規程に則り主査1名、副査2名以上による審査委員会を設置し、厳正かつ客観的な審査を行う。なお、必要と認めた場合は、他の大学院または研究所等の教員等を審査委員に加える。最終試験は、上記審査員によって口頭試問形式で行う。

学位論文の審査基準は以下のとおりである。

1. 明確な問題意識があり、研究対象が明示されていること。
2. 研究課題解決のための、明晰な方法論を備えていること。
3. 研究史を精査したうえで、自己の研究の位置づけが明確に為されていること。
4. 研究における論理性と実証性がともに満たされていること。
5. 表記、表現および論述が適切であり、明晰な構成のもとに成立していること。
6. 研究における学術上の成果と意義が認められること。
7. 学術研究における独創性と将来性を兼ね備えていること。

### ● 履修上の注意

指導教員が必要と認めた場合は、選択科目として指導教員以外の講義を履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。

● 開講科目

授業科目	学習方法	単位数	担当者		備考
古代前期文学特殊研究 古代前期文学研究指導	講義 研究指導	4	専任・博(文)	中嶋真也	
古代後期文学特殊研究Ⅰ 古代後期文学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任・博(文)	松井健児	
中世文学特殊研究Ⅰ 中世文学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任・博(国文)	田中徳定	
中世文学特殊研究Ⅱ 中世文学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任・博(人文)	櫻井陽子	
近世文学特殊研究Ⅰ 近世文学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任・博(人文)	近衛典子	
近代文学特殊研究Ⅰ 近代文学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任	勝原晴希	
近代文学特殊研究Ⅱ 近代文学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任	岡田豊	
近代文学特殊研究Ⅲ 近代文学研究指導Ⅲ	講義 研究指導	4	専任・博(人文)	倉田容子	
国語学特殊研究Ⅰ 国語学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任・博(文)	土井光祐	

● 授業科目の概要

■ 古代前期文学特殊研究【講義】  
■ 古代前期文学研究指導【研究指導】

中嶋 真也

古代文学の中で、7～8世紀を中心とするいわゆる上代文学を扱う。受講生の博士論文作成のための指導を行う。受講生の研究テーマをもとに、テーマを再検証し、研究上の問題点を共有し、独自の研究成果を導くための指導を行う。教員による講義、受講生による研究発表、教員・受講生の討論など、指導形態は多様となるが、定期的に小論文を提出し、研究経過を確認しながら、研究者としての自立を促し、博士論文への道筋をつける。

■ 古代後期文学特殊研究Ⅰ【講義】  
■ 古代後期文学研究指導Ⅰ【研究指導】

松井 健児

古代後期文学の中で、9～11世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の博士論文作成のための指導を行う。研究における学術上の成果と意義が認められることを目標にして、個々の研究課題解決のための、明確な方法論を探究する。研究史を精査したうえで、個別の研究テーマの位置づけを行い、研究における理論性と実証性を獲得すべく、多様な局面からの研究的な接近を試みる。研究者としての、プレゼンテーション能力の涵養にも努める。

■ 中世文学特殊研究Ⅰ【講義】  
■ 中世文学研究指導Ⅰ【研究指導】

田中 徳定

中世文学(12～16世紀を中心とする時代)を扱う。受講生の博士論文作成のための指導を行う。受講生の研究テーマをもとに、テーマを再検証し、研究上の問題点を共有し、独自の研究成果を導くための指導を行う。教員による講義、受講生による研究発表、教員・受講生の討論など、指導形態は多様となるが、定期的に小論文を提出し、研究経過を確認しながら、研究者としての自立を促し、博士論文への道筋をつける。

■ 中世文学特殊研究Ⅱ【講義】  
■ 中世文学研究指導Ⅱ【研究指導】

櫻井 陽子

中世文学（12～16世紀を中心とする時代）を扱う。受講生の博士論文作成のための指導を行う。受講生の研究テーマをもとに、テーマを再検証し、研究上の問題点を共有し、独自の研究成果を導くための指導を行う。教員による講義、受講生による研究発表、教員・受講生の討論など、指導形態は多様となるが、定期的に小論文を提出し、研究経過を確認しながら、研究者としての自立を促し、博士論文への道筋をつける。

■ 近世文学特殊研究Ⅰ【講義】  
■ 近世文学研究指導Ⅰ【研究指導】

近衛 典子

近世文学（17～19世紀を中心とする時代）を扱う。受講生が博士論文を作成するための指導を行う。受講生の研究テーマをもとに、テーマを再検証し、研究上の問題点を共有し、独自の研究成果を導くための指導を行う。教員による講義、受講生による研究発表、教員・受講生の討論など、指導形態は多様となるが、定期的に小論文を提出し、研究経過を確認しながら、研究者としての自立を促し、博士論文への道筋をつける。

■ 近代文学特殊研究Ⅰ【講義】  
■ 近代文学研究指導Ⅰ【研究指導】

勝原 晴希

近代文学の中で、20世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の博士論文作成のための指導を行う。受講生の研究テーマをもとに、テーマを再検証し、研究上の問題点を共有し、独自の研究成果を導くための指導を行う。教員による講義、受講生による研究発表、教員・受講生の討論など、指導形態は多様となるが、定期的に小論文を提出し、研究経過を確認しながら、研究者としての自立を促し、博士論文への道筋をつける。

■ 近代文学特殊研究Ⅱ【講義】  
■ 近代文学研究指導Ⅱ【研究指導】

岡田 豊

近代文学の中で、20世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の博士論文作成のための指導を行う。受講生の研究テーマをもとに、テーマを再検証し、研究上の問題点を共有し、独自の研究成果を導くための指導を行う。教員による講義、受講生による研究発表、教員・受講生の討論など、指導形態は多様となるが、定期的に小論文を提出し、研究経過を確認しながら、研究者としての自立を促し、博士論文への道筋をつける。

■ 近代文学特殊研究Ⅲ【講義】  
■ 近代文学研究指導Ⅲ【研究指導】

倉田 容子

近代文学の中で、20世紀を中心とした時代の文学を扱う。受講生の博士論文作成のための指導を行う。受講生の研究テーマをもとに、テーマを再検証し、研究上の問題点を共有し、独自の研究成果を導くための指導を行う。教員による講義、受講生による研究発表、教員・受講生の討論など、指導形態は多様となるが、定期的に小論文を提出し、研究経過を確認しながら、研究者としての自立を促し、博士論文への道筋をつける。

■ 国語学特殊研究Ⅰ【講義】  
■ 国語学研究指導Ⅰ【研究指導】

土井 光祐

オリジナルなテーマに基づいて日本語の構造と変遷とを実証的に分析し得る研究能力の涵養を目指す。博士論文の提出を視野に入れつつ、当面は学会発表、雑誌論文への結実を目指し、受講生の専門性に応じたテーマに基づいて調査、発表、討論を繰り返していく。教員による講義、受講生による研究発表、教員・受講生の討論など、指導形態は多様となるが、定期的に小論文を提出し、研究経過を確認しながら、研究者としての自立を促し、博士論文への道筋をつける。

第一章

第二章

仏教

国文

英文文

地理

歴史

社会

心理

経済

商

公法

私法

経営

診療放射線

グローバル

第四章